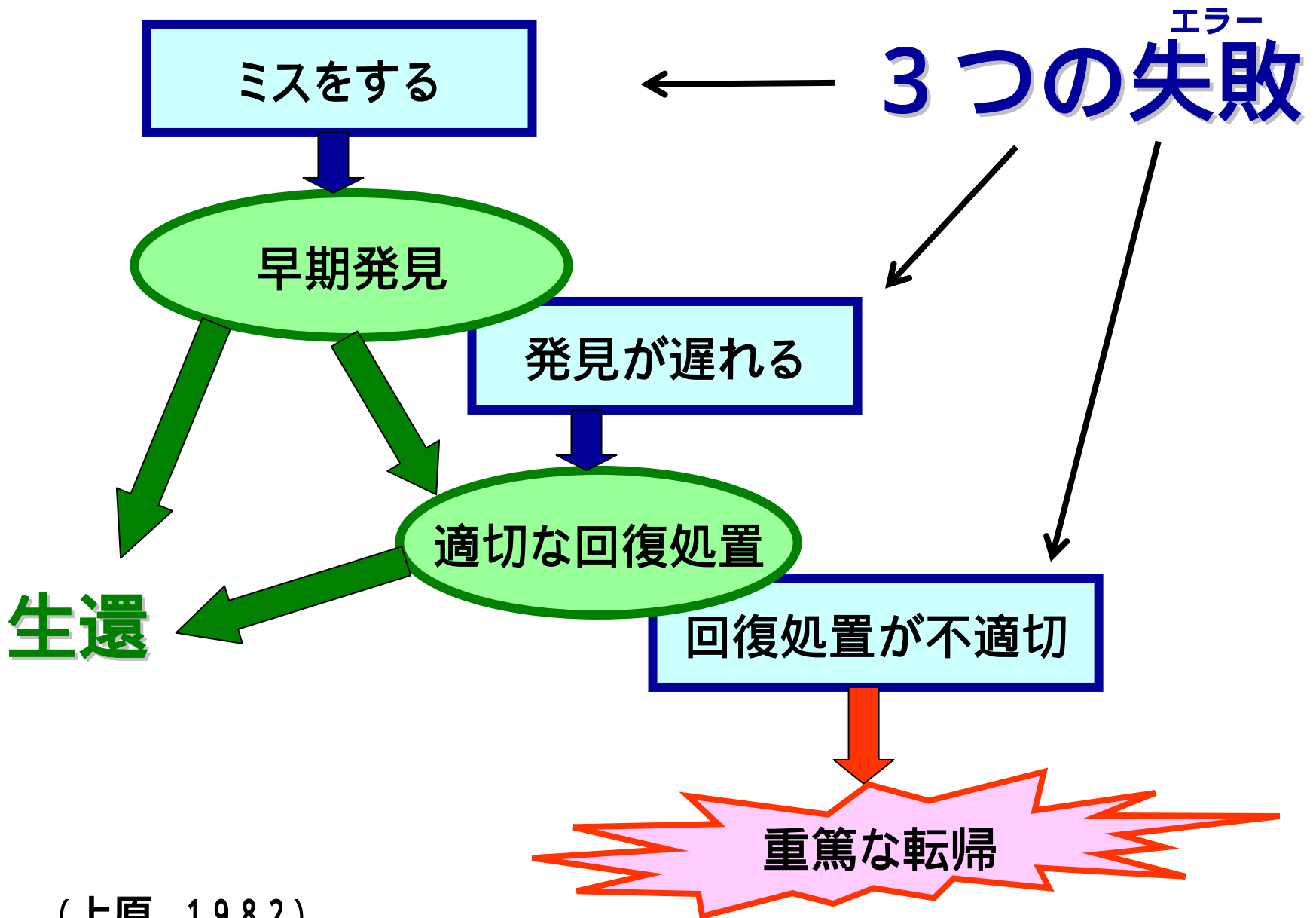


# リスク因子の予知分析

## Predictive Risk Assessment

NDP タスクチーム  
「臨床研修の安全管理」

東北大学大学院医学系研究科 上原鳴夫



(上原、1982)

(上原, 東北大学)

# 医療事故をなくす

1. エラー(ミス)が起きないようにする
2. エラー(ミス)が起きても  
大事に至らないようにする

# 侵襲的手技の危険・危機管理に関する教育

- ◆ 適応と長所・短所、代替法を理解している
- ◆ リスク(起こりうる合併症とその頻度)を理解している
- ◆ 危険回避の方法を知っている
- ◆ 合併症が生じた場合の発見の方法を知っており,発見に必要な準備がなされている
- ◆ 合併症が生じた場合の回復処置の方法を知っており,その手技を備えているか手技を備えた人が待機している
- ◆ 回復処置に必要な器具・医薬品等がすぐ使用できるように準備されている
- ◆ 単独実施が許可されるまでに、必要な段階を経ており各段階の要求レベルが明示されている

# 目標

- (1) 研修医やナースが行う侵襲を伴う処置によって患者さんに傷害を生じないための対策原案をつくる。
- (2) 代表的な侵襲処置の危険・危機管理の計画作りと体制整備を行うことを通じて、他の危険処置についても同様に安全管理のための体制整備が計画・実施できる方法論を形成する。

## 体制整備の課題

代表的な侵襲処置のリスク因子予知分析の結果を踏まえて安全なシステムと研修計画・研修実施体制をつくる。

# < リスク因子の予知分析 >

- ◆ 傷害を起こさないための手順上の注意事項
  - ◆ 傷害が発生したことを発見する手段
  - ◆ 傷害発生時の対処方法 / 拡大防止措置
  - ◆ 発生時の適切な対処を可能にするための備え / 予防措置
- 
- ◆ 研修期間にできるようにするべきこと

# リスク因子の予知分析(MAP-1)

手技			
傷害について  安全対策の概要	1	(直接原因)	
	2	(メカニズム / 間接原因)	
	3	傷害の発生頻度	(調査結果、文献情報、または推定)
	4	傷害の重大さ	(注) *
	5	傷害を起こさないための留意事項	(コツ / してはいけないこと)
	6	傷害が発生したことを発見する手段	早い段階で - 遅い段階でも
	7	傷害発生時の対処方法 / 拡大防止措置	
	8	発生時の適切な対処を可能にするための備え / 予防措置	(傷害の発生を想定してあらかじめ準備しておくべきこと)
＜安全な実施手順と遵守事項＞			
		作業区分(プロセス)	実施手順 (作業事項・操作事項)
＜安全な研修環境＞			
	1	研修・指導計画で考慮すべき事項	
	2	手技訓練を実施する事項	
	3	その他 (シミュレーターの活用や開発要否など)	
	4	病棟・院内の体制	
	5	使用する資機材の標準化	
	6	実施するとよい調査と調査方法	
	7	患者さんに必ず説明しておく(企業事項 北大学)	
	*	物品標準の参照、技術標準の参照、標準手順の参照、その他の参照	

# 重大さのスコアとその基準

5	死亡する確率がたぶん10%以上
4	死亡する確率は多分10%以下だが死亡する例がある
3	死亡することはまずないが相当な治療を必要とする
2	死亡することはまずないが何らかの治療手段が必要
1	死亡することはまずないが経過観察が必要



- ◆ 鎖骨下静脈穿刺
- ◆ 中心静脈カテーテル
- ◆ 静脈注射
- ◆ 胸腔ドレナージ
- ◆ 胸腔穿刺
- ◆ バルン留置
- ◆ 腹腔穿刺
- ◆ 骨髄穿刺
- ◆ 動脈穿刺
- ◆ 気管内挿管

# 臨床研修が安全に行われるための体制作り

研修医、新人ナースが行う侵襲処置の危険危機管理を中心に

1. 「リスク因子の予知分析と安全を配慮した標準手順」
  2. 「シミュレーション・トレーニングの活用」
  3. 「院内救急体制」
  4. 「手技の教え方 - 研修指導の方法と指導要領」
  5. 「技能評価」
  6. 「安全教育教材の開発」
  7. 「指導医・指導ナースの研修と指導要領」
  8. 「勤務体制と配置」
  9. 「患者さんに説明するためのパンフやツール」
  10. 「MMカンファレンス」
- など。

◆ 2005-1-16加筆(鎖骨下)修正2.13.xls